

第3回 富山きときと空港運営あり方検討会議

令和4年2月28日

富山県

目次

- ◆ これまでの議論の整理 P 2
- ◆ 将来像実現のための取組施策 P 5
- ◆ 民間活力導入手法の検討 P 14



これまでの議論の整理

<p>空港を取り巻く環境 (外的要因)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大と長期化 ・ 人口減少に伴う航空需要の減少 ・ 北陸新幹線との競争と共存 ・ アフターコロナの景気回復と観光需要の増加の期待 ・ 「新しい生活様式」の浸透による旅行需要・ビジネス需要の変容 ・ LCCの拡大やリージョナルジェットによる地方間運航の増加 ・ 海外・国内での民営化・コンセッション導入に向けた動き ・ 先端技術・DXの進展
<p>空港を取り巻く環境 (内的要因)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による国内線の一部運休・国際線の全便運休 ・ 空港施設の歳出超過の拡大と着陸料収入の減少 ・ 施設の老朽化に伴う今後の更新・投資費用の増嵩 ・ 空港から観光地に直行する交通手段が限定的 ・ 北陸新幹線による首都圏からの流動量の増加 ・ ビジネスジェットの利用強化に向けた動き ・ 国際線定期路線の充実とCIQの常駐 ・ 県内産業界、観光業界や近隣県との連携機運の高まり
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフターコロナの航空需要回復を見据えた誘客促進 ・ 既存路線の維持・活性化と新規路線の開拓など航空ネットワークの充実・強化 ・ 「新しい生活様式」や多様化するニーズに応じた誘客 ・ 空港利用の機運醸成と利用圏域拡大 ・ 県内産業や観光資源、近隣県などとの連携強化 ・ 空港施設の維持管理の効率化と老朽化により増嵩する更新・投資への対応 ・ 官民連携による空港経営改革の検討

将来像

- 1 多様なニーズや需要に柔軟に対応できる空港
- 2 地域の資源を活かした魅力がある空港
- 3 広域におけるゲートウェイ機能を備えた空港

取組みの方向性

- 1 航空ネットワークの維持・拡充
- 2 空港施設機能の拡充
- 3 二次交通の利便性向上
- 4 県内産業・観光資源との連携
- 5 近隣県・近隣空港との連携
- 6 「新しい生活様式」などの多様なニーズへの対応
- 7 空港利用促進に向けた機運醸成

検討会議における主な意見

第1回目会議

- ・ 底堅いビジネス需要の維持のための方策の検討が必要
- ・ 空港と観光地を結ぶ二次交通の充実が重要
- ・ ワークेशन利用者に着目した施策展開が必要
- ・ 近隣自治体、近隣空港との連携による利用促進が重要
- ・ 空港・空港周辺の魅力向上、空港にわざわざ行きたくなるコンテンツが必要
- ・ 効率的な空港運営や空港の魅力向上には民間活力導入の検討が重要

第2回目会議

- ・ ターゲットを明確にしたメリハリある施策展開が必要
- ・ 底堅いビジネス需要は確保しつつ、観光需要でのさらなる上乗せが重要
- ・ 空港での滞在時間の増、航空機利用者以外の利用者数の増が重要
- ・ 飛騨高山や上越妙高地域の利用促進とマイエアポート意識の醸成が必要
- ・ 富山空港の愛称について丁寧な議論が必要
- ・ 民間活力導入手法を検討する場合には、コンセッション方式についても検討が必要 など



将来像実現のための取組施策

- 第2回検討会議で提示した将来需要予測結果や富山きときと空港の現状・特性を踏まえ、重点的に取り組む施策を整理する。
 - 1 将来需要予測
 - ・ 国内線は2024年までに回復見込（観光需要は100%回復見込、ビジネス需要は恒久的に▲30% ±10%見込）
 - ・ 国際線は2026年までに回復見込（東アジア・東南アジア圏の地域間航空需要の成長に期待）
 - 2 富山きときと空港の現状・特性
 - ・ ビジネス需要が大きなシェアを占める
 - ・ 国内線（2路線）・国際線（4路線）と定期路線が充実している
 - ・ CIQが常駐している
 - ・ 空港は県中心部に位置し、ICや市街地から近くアクセスが容易である
 - ・ 高速道路などの道路ネットワークの充実により近隣県からの利便性が高い

今後の施策を考える上での重要なポイント

- ・ **ビジネス需要の維持・底上げ**
- ・ **アジア圏からのインバウンド需要の取込み**
- ・ **新たな利用者の掘り起こし**

上記を踏まえ、次のとおり「重点的に取り組む施策」を示す。

ビジネス需要の維持・底上げ

～全国・海外へ便利に乗り継げる～

✓ ビジネス客等の利用促進

- 全国・海外への乗継ぎ利便性を訴える積極的なプロモーションの実施
- 県内外の旅行会社を対象とした乗継旅行商品の造成
- ビジネスブースやコワーキングスペース、ビジネスラウンジなどのビジネス環境の整備

R4

(R4年度に取り組む施策)

空港ターミナルビル内のビジネスブースの設置

WEB会議などのテレワークを可能とする防音の
個室ビジネスブースを設置

設置台数 3台

設置場所 国内線ビル 2階中央ロビー・
手荷物検査後の待合室 (予定)



羽田空港のANAラウンジ



防音の個室ビジネスブース (イメージ)

～新たな利用者層に選ばれる～

✓ ビジネスジェットの受入環境整備

- ビジネスジェット利用者の専用動線・専用待合室等の整備
- ケータリング、宿泊、送迎車両などの各種手配や運航支援サービスの検討・充実

R3→R4

(R4年度に取り組む施策)

ビジネスジェット利用者の専用動線・専用待合室等の整備

利用者のプライバシー・快適性を確保するための
専用動線・出入国審査も可能となる専用待合室
を整備

設置場所 国際線ビル 1階



ビジネスジェット(イメージ)



関西国際空港ビジネスジェット専用施設
「PremiumGate玉響」(イメージ)

アジア圏からのインバウンド需要の取込み

～航空会社を選ばれる～

✓ 戦略的なエアポートセールス

- 空港アドバイザーと連携した戦略的なエアポートセールスの実施 R4
- LCC・リージョナルジェット・チャーター便・ビジネスジェットの誘致に向けた航空会社・運航支援会社への定期的な往訪、国際航空展示会・商談会への参加 R4

(R4年度に取り組む施策)

国際航空展示会・商談会への出展・参加

新規路線開拓・ビジネスジェット誘致に向けて海外の国際航空展示会・商談会へ参加

Routes Asia2022 6月開催 ベトナム・ダナン
NBAA-BACE 10月開催 アメリカ・フロリダ州



国際航空展示会・商談会の様子

～とやまの幸せな旅を楽しむ～

✓ 空港発着の観光客向けサービスの充実

- 新たな時代に対応した旅行商品・サービスの造成やデジタル技術の活用 R4
- AIチャットボットを活用した情報提供などのインバウンド誘客に向けた受入環境整備
- 手荷物の一時預かり、宿泊先等への荷物配送などの手ぶら観光サービスの充実



中部国際空港の手荷物一時預かり所



AIチャットボットによる外国人向け観光案内サービス(R3年10月1日～)

新たな利用者の掘り起こし

～いつも楽しくワクワクできる～

✓ 旅客ターミナルビルの付加価値の向上

- 提案型トライアルショップの公募など集客が期待できる施設・店舗の誘致
- 富山の産業・伝統工芸の展示・体験、空港オリジナル商品の販売、富山の食・酒、アニメキャラクターを活かした特徴あるイベントの開催 R4

(R4年度に取り組む施策)

富山きときと空港オリジナル商品の企画・販売

富山空港ターミナルビル(株)においてマグカップやランウェイタオルなどの空港限定商品を企画・販売



富山きときと空港オリジナル商品(イメージ)

～近隣県の利用を増やす～

✓ 利用圏域の拡大

- 航空会社と連携した飛騨高山・上越妙高地域での利用促進プロモーションの実施 R4

～皆に愛される～

✓ 「マイエアポート意識」の醸成

- 航空会社、空港ビル会社等と連携・協力したイベントの開催 R4
滑走路見学ツアー、空港で働く車見学ツアー、空港職業体験ツアー
富山湾・立山周遊フライト、初日の出フライト など
- 関係自治体・企業・周辺施設等と連携・協力したイベントの開催 R4
ストリートピアノの設置、演奏会 など

(R4年度に取り組む施策)

滑走路見学ツアー・空港で働く車見学ツアーの開催

富山市「StreetPianoプロジェクト」との連携

富山市内の小学校で使われなくなったグランドピアノにペイント装飾し、ターミナルビル内に「ストリートピアノ」として設置

設置場所 国内線ビル1階 到着ロビー



空の日のイベント 滑走路見学ツアー



「StreetPianoプロジェクト」
富山駅南北自由通路

取組みの方向性と主な施策

- 重点的に取り組む施策に加え、目指すべき将来像を実現するための主な施策について次のとおり整理する。
あわせて、将来的に、先進的・特徴的なリーディングプロジェクトとして取り組むことを検討する施策についても整理する。
- 取組みの実施時期として、短期的な取組みはコロナ収束後かつ国内・国際ともに需要回復が期待される2026年度まで、中期的な取組みは2031年度まで、長期的な取組みは2036年度までを目安として考える。

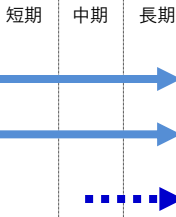
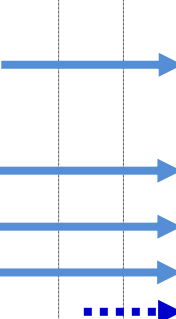
取組みの方向性		主な施策	実施時期	関係団体
			短期 中期 長期	
航空ネットワークの維持・拡充	(1) 既存路線の維持・活性化	① 観光客・ビジネス客等の利用促進 重点施策 <ul style="list-style-type: none"> ・富山きとくと空港の利便性、優位性などの情報発信 ・全国・海外への乗継ぎ利便性を訴える積極的なプロモーションの実施 ・県内外の旅行会社を対象とした乗継旅行商品の造成 ・ビジネスブースやコワーキングスペース、ビジネスラウンジなどのビジネス環境の整備 ・サポーターズクラブのビジネス利用者向け特典の充実 		県 空港ビル会社 その他民間
		② 航空貨物輸送等の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・荷主・フォワーダーに対する航空貨物需要等の調査 ・国内・国際航空貨物のトライアル輸送・利用促進に向けたPR 		県 その他民間
	(2) 新規路線の開拓	① 新たな需要確保に向けた戦略的なエアポートセールス 重点施策 <ul style="list-style-type: none"> ・空港アドバイザーと連携した戦略的なエアポートセールスの実施 ・LCC・リージョナルジェット・チャーター便・ビジネスジェットの誘致に向けた航空会社・運航支援会社への定期的な往訪、国際航空展示会・商談会への参加 *新規路線開拓における成果連動型民間委託方式の導入 		県 空港ビル会社 その他民間

… これまでの検討会議での委員意見を反映した施策

※ 将来的に先進的・特徴的なリーディングプロジェクトとして取り組むことを検討する施策

取組みの方向性		主な施策	実施時期			関係団体
			短期	中期	長期	
空港施設機能の拡充	(1) 空港基本施設の 機能強化	① ビジネスジェットの受入環境整備 重点施策 ・ビジネスジェット利用者の専用動線・専用待合室等の整備 ・ケータリング、宿泊、送迎車両などの各種手配や運航支援サービスの検討・充実	→			県 空港ビル会社 その他民間
		② 需要に応じた駐機箇所の整備 ・機材や駐機日数などの多様なニーズに対応した駐機箇所見直し	→			県 空港ビル会社 その他民間
		③ 点検・管理業務の効率化 ・ドライブレコーダーによる滑走路面点検システム等のAI・ICT技術を活用した点検・管理業務の省力化・効率化 ＊ 空港除雪車両・除草車両の自動運転化 ＊ 空港周辺未利用地での太陽光発電導入などの「空港による」カーボンニュートラル化	→		→	県 その他民間
	(2) 旅客ターミナルの 機能強化	① 旅客ターミナルビルの付加価値の向上 重点施策 ・提案型トライアルショップの公募など集客が期待できる施設・店舗の誘致 ・富山の産業・伝統工芸の展示・体験、空港オリジナル商品の販売、富山の食・酒、アニメキャラクターを活かした特徴あるイベントの開催	→			県 関係自治体 空港ビル会社 その他民間
		② 利用者ニーズに応じた快適なサービスの提供 ・多言語による案内やピクトグラムの導入等による表示環境の充実 ・施設、店舗の適切な配置、動線の工夫 ・ユニバーサルデザインの導入によるすべての利用者に安全で優しい環境整備 ・手荷物の一時的預かり、宿泊先等への荷物配送などの手ぶら観光サービスの充実	→	→	→	県 空港ビル会社
		③ 施設管理業務の効率化 ・カメラ映像解析による行動予測システム等のAI・ICT技術を活用した警備業務の省力化・効率化 ＊ターミナルビル内の清掃・消毒、人の移動や手荷物運搬等を支援するロボットの導入	→		→	県 空港ビル会社 その他民間

取組みの方向性	主な施策	実時期			関係団体
		短期	中期	長期	
二次交通の利便性向上	① アクセスの利便性向上 ・観光地や交通拠点までの直行バスや周遊バス、デマンド型交通等の運行 ・タクシー、バス、レンタカー等のモビリティサービスや観光施設等と連携したMaaSの推進 *顔認証技術を活用したストレスフリーな観光・交通サービスの提供 *専用ヘリコプターや「空飛ぶクルマ」での観光地直行送迎サービスの提供	→	→	→	県 その他民間
	② 自動車利用者の利便性向上 ・駐車場の駐車枠ワイド化による乗降環境の改善 ・有料駐車場のキャッシュレス化等の導入 ・電気自動車の充電施設等の誘致	→	→	→	県 その他民間
県内産業・ 観光資源との連携	① 観光資源等の情報発信やプロモーション ・県内産業、観光地、観光資源などの、ターゲットに応じた情報発信やプロモーションの実施 ・富山の産業・伝統工芸の展示・体験、空港オリジナル商品の販売、富山の食・酒、アニメキャラクターを活かした特徴あるイベントの開催（再掲） ・県内プロスポーツチームとの連携による空港内でイベント・パブリックビューイングの実施	→	→	→	県 関係自治体 空港ビル会社 その他民間
	② 空港発着の観光客向けサービスの充実 重点施策 ・新たな時代に対応した旅行商品・サービスの造成やデジタル技術の活用 ・AIチャットボットを活用した情報提供などのインバウンド誘客に向けた受入環境整備 ・手荷物の一時預かり、宿泊先等への荷物配送などの手ぶら観光サービスの充実(再掲) *ガストロミーツーリズム・クラフトツーリズムなど富裕層向け旅行商品モデルの検討	→	→	→	県 関係自治体 空港ビル会社 その他民間
近隣県・ 近隣空港との連携	① 需要後背圏の利用圏域拡大 重点施策 ・近隣県からの利用者に対する高速道路料金割引、駐車場割引・前泊割引などのインセンティブの付与、関係自治体や商工団体等と連携した情報発信 ・航空会社と連携した飛騨高山・上越妙高地域での利用促進プロモーションの実施	→	→	→	県 関係自治体 空港ビル会社 その他民間
	② 広域連携による観光資源等の情報発信やプロモーションの実施 ・近隣県、観光事業者と連携し、海外市場の旅行ニーズに応じた戦略に基づく共同広告、イベント、メディア招聘等の実施 ・近隣県の魅力ある観光資源を組み入れた広域的な観光周遊ルートの開発・形成の促進	→	→	→	県 関係自治体 その他民間

取組みの方向性	主な施策	実施時期	関係団体
「新しい生活様式」などの多様なニーズへの対応	① 「新しい生活様式」に対応した環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスブースやコワーキングスペース、ビジネスラウンジなどのビジネス環境の整備(再掲) ・衛生設備の非接触化、空調設備の高機能化、サーモグラフィー、オゾン発生器の設置などの感染防止対策の徹底 * 空港を拠点とした、ドローンを活用した新たな物流網の構築	短期 中期 長期 	県 空港ビル会社 その他民間
空港利用促進に向けた機運醸成	① 「マイエアポート意識」の醸成 <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">重点施策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・航空会社、空港ビル会社等と連携・協力したイベントの開催 滑走路見学ツアー、空港で働く車見学ツアー、空港職業体験ツアー 富山湾・立山周遊フライト、初日の出フライト など ・関係自治体・企業・周辺施設等と連携・協力したイベントの開催 ストリートピアノの設置、演奏会 など ・空港ボランティアによる空港周辺の清掃、緑化活動 ・サポーターズクラブの特典の見直しや、さらなる利用促進に向けたインセンティブの検討 * 空港のエンターテインメント機能の充実		県 関係自治体 空港ビル会社 その他民間



民間活力導入手法の検討

- 空港の民間活力導入事業に参画または検討実績のある事業者を中心に、富山きときと空港における民間活力の導入について、令和3年9月下旬からヒアリング調査を実施

1. 事業者ヒアリングの主な意見

主な意見

- 先行して空港の運営権を民間に設定している空港では、エアライン誘致やイベントの実施等による空港の賑わい創出などが実施されており、富山空港の場合も、県と連携したエアライン営業、テナント誘致、イベントの実施、PR、観光コンテンツ開発など、賑わい創出や需要創出に向け、民間事業者の知見を活用できる可能性がある。
- エアライン誘致については、例えばCIQの常駐といった強みを活かした近距離国際路線誘致などの可能性がある。
- 指定管理者制度は民間活力導入手法の一つとして導入の可能性はある一方、民間の自由度が限定的というネガティブな面もある。
- 利用者数が年間100万人に満たない富山空港の収益レベルでは、民間事業者にとって参入は困難であるため、民間活力導入手法としてコンセッションを導入するのであれば混合型が前提となる。特に、空港基本施設の大規模投資等は、県による負担が好ましい。
- コンセッション方式を検討するとすれば、空港全体の運営ではなく、先行して空港ビル部分のみの運営による収益力アップやエアライン誘致の実施、更新投資計画策定の支援等、対象範囲を限定してスタートすることも考えられる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、リスク分担に対する考え方はよりシビアになっている。
- 需要に大きく影響を与えるような想定困難なリスクなど、リスクシェアの明確化が必要

2. 現状認識

項目	現状認識
導入手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括管理委託方式や指定管理方式では、一定のコスト削減効果や運営の効率化は図れるが、利用促進、新規路線開拓などの分野において効果が限定的である。 ・ コンセッション方式では、利用促進に向けた新たな取り組みや新規路線開拓などの可能性が高いが、導入までの準備、スケジュールに時間を要する。 ・ 一般的にコンセッション方式の独立採算制を導入している空港は大規模空港が多い。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期化するコロナ禍により、先行して運営権を民間に設定している空港の経営状況が大変厳しい。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山きときと空港は、河川敷空港であることから滑走路の拡張は困難であるなど、物理的制限がある。 ・ 今後も新型コロナウイルス感染症のような、需要に大きく影響し、想定困難な事象が発生する可能性がある。 ・ 令和2年度の富山きときと空港の収支はキャッシュフローベース▲613百万円、富山空港ターミナルビル(株)の収支は当期純損失▲75百万円

3. 今後の進め方

- 富山きとときと空港の将来像の実現のためには、アフターコロナにおいて従来の枠組みにとらわれない柔軟な発想が求められており、**新たに民間事業者の資金やノウハウを活用することが有効**であると考えられる。
- 空港分野の民間活力の導入にあたっては、包括管理委託方式、指定管理方式、コンセッション方式などの手法があるが、民間事業者の経営の自由度が最も高く、創意工夫を活かすことができるコンセッション方式が導入されている例が多い。
- 今回実施した事業者ヒアリングや他空港の例を踏まえれば、富山きとときと空港においても、コンセッション方式の導入の可能性はあるものの、

① 空港の旅客規模に適した導入手法

↳ 大規模空港は独立採算方式を導入しているが、静岡空港や南紀白浜空港などの小規模空港は県の一定の負担が継続する例あり

② 参画希望の事業者の状況

↳ 長期化するコロナ禍により事業者の参画意欲が慎重な傾向あり

③ 費用負担、業務範囲、リスク分担、移行時期

↳ 空港基本施設、空港ターミナルビルに係る資産保有状況や財務状況の詳細な分析、需要に大きく影響を与えるような想定困難な事象に係るリスク分担の明確化の必要あり

などの課題がある。

- 一部の空港で導入例がある包括管理委託方式や指定管理方式は、一定のコスト削減効果や運営の効率化は図れるものの、県の仕様に基づく事業実施となるため、民間事業者の新たな事業展開に限りがある。
- 今後、民間事業者からの意見聴取や収支シミュレーションを行ったうえで、最も適した民間活力導入手法の判断を行うこととする。

⇒ 富山きとときと空港に適した民間活力導入手法について調査・検討し、方向性を整理するため、**令和4年度当初予算案において、民間活力導入可能性調査にかかる経費を計上**



幸せ人口1000万

～ ウェルビーイングの向上に資する空港を目指して ～

